

第8学年 学びのカテゴリー「社会に生きる」

生徒は、これまでのどう生きるかの探求で、学びのカテゴリー（探究領域）ごとに様々な問題を自分ごととして発見し、その問題を解決しようと考え、判断し、行動してきた。その学習経験を通して、社会に生きる人々は様々な見方や考え方をもって生きていることを学んだり、前向きに自分の得意なことや苦手なことと向き合い、将来を見据え考え始めたりしている。そんな生徒が第8学年で探究する学びのカテゴリーは、「社会に生きる」である。多様な価値観をもつ人が生きる社会の中で「自分はこれからどう生きていきたいのか？」を考え、テーマをもち、自身の将来を見据えながら探求していく。生徒が自身の将来を考える中で、社会や自分に必要なものや磨くべきことを模索し、判断し、それらを確立させるために行動する姿の具現を目指していく学びである。

第1単元の「社会とは？」では、前年度の学びである「多様性」を「違い」と捉え、自分と他者との違い、生きている環境の違い、見方・考え方の違い、事象に対する価値観の違いなどについて考えてきたことを出発点とし、大阪研修での、企業訪問や職業講話の体験を基に、1組では「幸せとは」、2組では「幸せに生きるとは」、3組では「人と人がつながり幸せに生きるとは」という学級別の探究テーマが設定された。

第2単元では、各学級の探究テーマを軸として、自分たちの知的好奇心、興味・関心や疑問を満たす様々な人と対話を行ったり、「学びたい」という願いに沿った研修先を自ら選定したりする学びを進めてきた。また、夏季休業期間には、自ら探究テーマを設定して、個人探究計画書を作成し、対話相手を探し出すことで、個人探究を進めてきた。本時は、ここまでの生徒の学びの文脈を踏まえ、「社会」に対する認識をさらに広げ、深める。

磯谷 直毅
池田 久志
岡田 春香
岸 周吾

8年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：社会に生きる (全105時間)

第8学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		自分の生き方と繋げながら探究することで「問題」に気づき、解決するために「問い」を生み出し、問いを解決するために何ができるか考え行動できるようにする。									
	(2) 関係構築力に関わって		仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、納得解や最適解を相手と協働して導こうとすることができるようにする。									
	(3) 貢献する人間性に関わって		社会の様々な事柄や他者の生き方について関心をもち、生き方に触れる過程で、よりよい自己の生き方を見つめようとする態度を養う。									
カテゴリー設定の理由	第7学年までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方をもちながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか?」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。☒											
学びの基盤となる道徳的諸価値	向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・真理の探究、創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・公正、公平、社会主義・社会参画、公共の精神 勤労・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び											
学びを構成する要素	伝統、文化、観光、環境、食、命 多様性(国籍、言語、性別、LGBTQ、障害、UD、インクルーシブ、福祉、差別、偏見、貧困、自分との違い、生きる環境の違い、それぞれの見方考え方、価値観の違い、共生) 社会 社会問題 自然環境 科学技術 勤労 働く人の思い、やりがい											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	I 社会とは (46時間)				II 社会を知る (41時間)				III 社会を広げる (18時間)			
主な学習活動	○前年度の「多様性」の学びを振り返り、自分とはどんな環境の中で生きているのか客観的に捉える。 ○前年度の3学級の学びの中で共通した学びや価値を洗い出し、今年度の学びのテーマへとつなげる。 ○学級テーマを視点とし、大阪で研修する。		○大阪での企業研修の学びを振り返る。 ○大阪研修で「幸せとは」を視点とした研修を通じた、疑問点について出し合う。 ○疑問点を学級の問いとして、岐阜での探究に向けた計画を立てる。 ○問いの解決に向けた研修先や対話相手を決める。 ○計画した研修や対話を行う。 ○学びをまとめ、学級で交流する。		○夏休み個人探究を行う。 ○個人探究の計画を立てる。 ○探究先へアポイントメントをとる。 ○疑問点を学級の問いとして、岐阜での探究に向けた計画を立てる。 ○探究先の方と対話をする。 ○個人探究した内容をまとめる。 ○個人探究のまとめを学級内で交流し、探究の方法や探究テーマについて知識を広げる。		○探究テーマに迫るための問いを考え、対話や校外学習へ出向く。 ○生まれた問いにつながる対話・研修計画を立てる。 ○アポイントメントを取る。 ○対話したり、見学したり、体験したりする。 ○学んだ内容を整理し、自分の考えをまとめる。 ○学級の仲間と対話し、次の問いをもつ。 ○学習を振り返り、探求テーマへの考えをまとめ、広げる。 ※このサイクルを繰り返す。		○単元I、IIを通して自分が学んだことを整理する。 ○周りの人が幸せになるために自分にできることは何か、大きな社会の中の一員としてできることを考える。 ○キャリアパスポートをまとめる。			
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	●多様な人々がいる中で、どうしてもみんなが幸せになれるのだろうか。 ■大阪研修で、自分は〇〇に企業研修に行きたいが、仲間は△△へ行きたい。どうしようか。 ●どうしてもよりよく人とつながることができるのだろうか。 【勤労・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・国際理解、国際貢献など】		■探究テーマに迫れるような企業がどこか分からない。どんな問いがあれば探究テーマに迫れるのか分からない。 ●私は企業Aを推しているが、他のメンバーはみんな企業Bを推している。でも企業Bの良さも確かに分かる。グループとしてどちらを推すべきか。 ■訪問したい企業へアポを取ったら断られてしまった。 ●社会のために何かしてみたいけど、自分にできることはあるのかな。 【真理の探究、創造・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・自然愛護・よりよく生きる喜びなど】		●社会の一員ではあるが、その中の1人として、何ができるのだろうか。 ■自分の探究しているテーマだけで考えると難しさがあつたけれど、他のグループと協力・コラボすると解決できることもあるんじゃないか? ■探究する時間がまだ足りない。できる限りもっと知りたい、考えたい。 ●探究を通して自分の将来について少し考えることはできたが、それを表現できるかどうかは別問題だ。実現させるためにはもっと○の部分を鍛えなければならぬ。 【相互理解、寛容・よりよく生きる喜びなど】							
人材活用施設	大阪研修 企業研修先：山岡金属工業(株)、合同食品株式会社、日本銀行大阪支店、シマノ自動車博物館、大阪起業家ミュージアム、株式会社プロードエンタープライズ、株式会社クボタ、江崎記念館、シェラトン都ホテル大阪、大阪地方検察庁 市内学級別研修先：大阪城・バナソニックミュージアム、あべのハルカス・あべのハルカス美術館、万博公園・国立民俗学博物館 ・合同会社USJ 職業講話：清水 郡氏、吉本興業 20世紀				・岐阜県警察本部 ・労働基準監督署				・II期で出会った人や施設			
教科等との関連	・国語：聞き上手になろう～質問で思いや考えを引き出す～ ・社会：日本の地域の特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査				・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・社会：日本の諸地域 ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・音楽：日本の伝統芸能				・国語：国語の学びを振り返ろう ～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・社会：開国と近代日本の歩み(産業革命と資本主義)			

8年1組 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 II 社会を知る (41)		①探究テーマと自分の生き方をつなげて問いをつくり、対話する相手や内容を考え計画を立てることができるようにする。 ②問題解決に向け、自分に何ができるか考え行動できるようにする。	①仲間や対話する相手の考えや生き方を受け入れ話し合うことができるようにする。 ②自分の思いを伝えたり仲間の考えを共感的に受け入れたりしながら共に活動できるようにする。	①対話する相手の生き方に触れ、今の自分には何ができるか考えたり、行動したりする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの個人探究の学びを小グループや学級で交流する。(関係①) ○警察署へ行き、市民を守る警察官が感じる幸せについて知ったり、ハローワークの方から、働く人たちを守る仕事をする方の幸せについて学んだりする。(問題②) (5)	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの個人探究や、校外学習の学びから、探究テーマについての自分の考えを整理する。(問題①) ○学級で交流を行い、もっとどんなことを知っていききたいのか、どんな場所へ行き、誰から話を聞けるとよいかを考えていく。(問題①) (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○「問いを明らかにするための計画(対話や訪問)」 ・アポ取り ・学級への提案、決定 ・計画の実行 ・学びの整理 ・学級での交流、新たな問いづくりのサイクルを繰り返す。(問題①、②) ○ここまでの活動を振り返って探究テーマに対する自分の考えをまとめる。(貢献①) (28)	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習や対話を終えた中で、探究テーマ「幸せとは」についての自分の考えを整理する。(問題②) ○学級でそれぞれが考えた「幸せ」について対話をする。(関係①) ○話を聞いたり体験したりする中で、出会った方々のように、自分たちにも「幸せ」を生み出すことはできないか、考える。(貢献①) (5)
加除修正欄				
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことについて聞く中で、自分や家族の幸せのためでもあるが、社会の一員としての責任があることを知った。 ・労働基準監督署では、働く人が働きやすい環境を作るために、仕事をしていた。相手の幸せが自分の幸せに繋がっていることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の安全や労働者が安心して働けることなど、自分自身のことよりも、自分以外の周りの人の状態が、自分の幸せとの関わりがあることが分かった。 ・もっといろいろな人と出会ったり、いろいろな場所へ行ったりして、探究テーマに迫りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸せ」について考えていく中で、幸せは自分だけで感じるものではなく、周りの人とのつながりの中で生まれてくることが分かった。そのつながりが、社会をつくっていると思った。その社会の中の1人として、自分も何かできないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究を繰り返していく中で、自分の考えがどのように変容していったのかを振り返る。 ・探究テーマについて、自分の考えをもち、話すことができる。
実際の姿				
■エッセンス ●ジレンマ	■探究テーマに迫るためには、どんな校外学習先がよいか分からない。		■校外学習先に行く目的をうまく伝えることができない。	●自分自身の幸せと、周りの人の幸せではどちらが大切なのだろう。
	●校外学習先 A もよいが、校外学習先 B でしか知れないこともある。どちらに行くべきか。		■自分たちが提案した校外学習先は選ばれなかった。	

8年1組 本時案 (8年1組教室)

目標

これまでの学びの経験を基に、学級の探究テーマ「幸せとは？」に迫るための研修先を選定する際に、自身の考えの広がりや深まりを生み出す可能性を予測し、お互いの立場を尊重しながら仲間と折り合い、現時点での最適解として選択・判断することで、学級の研修先を決定することができる。
(関係構築力)

本時 (28/41)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 前時までの探究を確認する。 ○前回までにどのようなことを知り、学んできましたか。 ・労働局の渡邊さんは、仕事を必要としている人に寄り添って相談に乗り、仕事の紹介をしていた。労働環境を改善するために、会社に対して労働時間や条件の適正化を働きかけていた。紹介した人からの感謝の言葉や、働く姿からやりがいを感じていた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>探究テーマ「幸せとは？」に迫るための研修先は、私たちにとって、どちらがふさわしいか。</p> </div> <p>2 自己の考えを発表し、全体で交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【研修先A】 ・私は、研修先Aがよいと思います。なぜなら、私たちが学んだのは、直接お客さんや利用者さんなど、関わった人から感謝されたときにやりがいを感じるからだ。その思いは接客業以外の仕事でも同じなのか気になります。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【研修先B】 ・私は、研修先Bがよいと思います。働く中での、人と人とのつながりの中に、幸せややりがいがあること学んだ。近年、様々なものが自動化されていく中で、人とのつながりが減っている。働く中のつながりが減ってしまっても、幸せややりがいは変わらないのか気になります。</p> </div> </div> <p>○「その研修先で大切にしたい○○は、何を優先して選んでいるのですか？△△ですか？」 ○「Mさんの発言の□□に対して、皆さんはどう思いますか？大切にされている判断の基準は何ですか？」</p> <p>3 1組が行く研修先を決定し、確認をする。 ○「みんなで、意思決定をする際は、多数決という方法を採用すると以前話し合い、決定しました。それについて、今回は意見がある人はいますか？」</p> <p>4 振り返りを記入する ○「Kさん、Kさんが選んだ研修先は選ばれませんでした。今のあなたの気持ちを教えてください。」 ・私は研修先○を選びました。しかし、選ばれたのは研修先△でした。それぞれの研修先について考えを出し合っていく中で、研修先△では□□について学び、考えを深められそうだと分かりました。まずはそこで、自分の学びを深めたいと思います。</p>	<p>○これまでの学びの足跡を掲示し、可視化することで、生徒が本時までの思考の流れをイメージできるようにする。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>○場所の良し悪しではなく、その訪問先に内在する価値を見出して発言できるように促す。また、板書には価値を抽出して位置付けることで、生徒が訪問先の良し悪しを議論するのではなく、内在する価値の葛藤を議論できるように促す。</p> <p>○リーダーが進行をできるよう、本時までの学習の中で、リーダーが進行する対話を行う。必要に応じて、研修先で学べる価値について考えさせる質問を投げかける。(例：やりがい、人とのつながり、お金、時間など)</p> <p>○「幸せ」について、その研修先がどのような関わりがあるのか、関わりや価値を整理して板書に位置付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 自身の主張と他者の主張との折り合いを生み出そうとしている姿 (自己調整) (関係構築力) ・全体交流での発言、振り返りの記載。</p> </div>

8年3組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：社会に生きる (全105時間)

第8学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		自分の生き方と繋げながら探究することで「問題」に気づき、解決するために「問い」を生み出し、問いを解決するために何ができるか考え行動できるようにする。									
	(2) 関係構築力に関わって		仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、納得解や最適解を相手と協働して導こうとすることができるようにする。									
	(3) 貢献する人間性に関わって		社会の様々な事柄や他者の生き方について関心をもち、生き方に触れる過程で、よりよい自己の生き方を見つめようとする態度を養う。									
カテゴリー設定の理由	第7学年までに、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きる人々は、いろいろな見方や考え方をもちて生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考える時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きる社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか？」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや磨くべきこと等を模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を具現させたい。☒											
学びの基盤となる道徳的諸価値	向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・公正、公平、社会主義・社会参画、公共の精神・勤労 家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び											
学びを構成する要素	伝統、文化、観光、環境、食、命 多様性(国籍、言語、性別、LGBTQ、障害、UD、インクルーシブ、福祉、差別、偏見、貧困、自分との違い、生きる環境の違い、それぞれの見方・考え方、価値観の違い、幸せの価値観、共生) つながる 社会 社会問題 自然環境 科学技術 勤労 働く人の思い、やりがい											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	Ⅰ 社会とは (46時間)				Ⅱ 社会を知る (41時間)				Ⅲ 社会を広げる (18時間)			
主な学習活動	○前年度の「多様性」の学びを振り返り、自分はどんな環境の中で生きているのが客観的に捉える。 ○「人と人がつながり幸せに生きる」とは、どんなことなんだろう。 ○大阪にはどんな「人と人のつながり」があるか探究する。		○大阪研修を通して、自分たちの周りにある「人と人のつながり」=社会を認識する。 ○7年生で学んだ多様性となげながら、だれもがよりよく生きることで社会について考える。 ○探究テーマに迫るために、対話をする。 ・タマキ写真館 田巻さん ・横山統括校長先生		○夏休み個人探究を通して、「人と人のつながり」について考えを深める。 ○個人探究の計画を立てる ○探究先へアポイントメントをとる ○対話をする ○個人探究した内容をまとめる ○個人探究のまとめを学級内で交流し、探究の方法や内容項目について知識を広げる。 ○新たな視点を基に「問い」をもつ。		○探究テーマに迫るための問いを考え、対話を行う。 ○生まれた問いにつながる対話の計画を立てる。 ○アポイントメントをとる。 ○対話したり、見学したり、体験したりする。 ○学んだ内容を整理し、自分の考えをまとめる。 ○学級の仲間と対話をし、次の問いをもつ。 ○これまでの学習を振り返り、探究テーマへの考えをまとめ、広げる。 ※このサイクルを繰り返す		○「人と人がつながり幸せに生きる」とはについて考えをまとめる。 ○家族や仲間、身近な人との関係でできている社会の中で、守られながら生活してきた自分に気づき、多様な人々が生きる「社会」の一員として、社会の中にある問題点や自分ができることを考える。 ○学びをどのように活かせるか計画を立てる。 ○今後も自分たちでできそうな活動を考える。 ○1年間の活動を振り返る。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートを記入する。			
想定されるエラー(■) ジレンマ(●) 【道徳的諸価値】	●多様な人々がいる中で、どうしてもみんなが幸せになれるのだろう。 ■生きていく上で、「人と人のつながり」は、切り離すことができない。 ●どうしてもよりよく人とつながることができのらう。 【相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・国際理解、国際貢献など】				●人と人がつながり合い、よりよく生きるためには、上手くいかないことも、失敗することもある。自分の幸せだけでなく、相手の幸せを考えて、相手に寄り添ったり、折り合いをつけたりする必要もある。自分の幸せと相手の幸せを考えることは、どちらが大切だろう。 ■探究テーマに迫る対話相手が見つからない。 ●より多くの人とつながるために、社会で何かをしたい。でも、今の自分にできることはあるだろうか。 【相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・よりよく生きる喜びなど】				●社会の一員ではあるが、今の自分に何ができるのだろうか。 ■探究する時間がまだ足りない。もっと知りたいし考えたい。 ●探究を通して自分の将来について少し考えることはできたけれど、それを実現できるかどうかは分からない。実現させるためにはもっと○○について考えたり、力をつけていかなければならない。 【向上心、個性の伸長・希望と勇気、克己と強い意志・よりよく生きる喜びなど】			
人材活用施設	大阪研修企業研修先：山岡金属工業(株)、合同食品株式会社、日本銀行大阪支店、シマノ自動車博物館、大阪起業家ミュージアム、株式会社ブロードエンタープライズ、株式会社クボタ、江崎記念館、シェラトン都ホテル大阪、大阪地方検察庁 市内学級別研修先：あべのハルカス・あべのハルカス美術館 ・合同会社USJ 職業講話：清水 郡氏、吉本興業芸人：20世紀 ・タマキ写真館 田巻さん ・横山統括校長先生				・4組作業班、新居先生 ・パティスリー ビバ 森 美帆さん ・探究テーマや問いに基づいた対話相手、企業 ・これまでの対話相手にさらに聞く				・Ⅱ期で出会った人や施設			
教科等との関連	・国語：聞き上手になろう～質問で思いや考えを引き出す～ ・社会：日本の地域的特徴と地域区分(人口、産業、交通、通信) ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査				・国語：立場を尊重して話し合おう～討論で多角的に検討する～ ・社会：日本の諸地域 ・数学：データの分析 データの比較と箱ひげ図 確率 標本調査 ・音楽：日本の伝統芸能				・国語：国語の学びを振り返ろう ～テーマを決めて話し合い、壁新聞をつくる～ ・社会：開国と近代日本の歩み(産業革命と資本主義)			

8年3組 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 II 社会を知る (41)		①探究テーマと自分の生き方をつなげて問いをつくり、対話する相手や内容を考え計画を立てることができるようにする。 ②問題解決に向け、自分に何ができるか考え行動できるようにする。	①仲間や対話する相手の考えや生き方を受け入れ話し合うことができるようにする。 ②自分の思いを伝えたり仲間の考えを共感的に受け入れたりしながら共に活動できるようにする。	①対話する相手の生き方に触れ、今の自分には何ができるか考えたり、行動したりする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みに個人探究（職場見学）してきたことをもとに交流する。（関係①） ○学級全体で対話をする。（関係②） ○仲間と対話したことをもとに問いをつくり、その解決に向けて、対話する相手を考える。（問題①） (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○4組の仲間の作業学習を見学する（関係①） ○4組の仲間と「ものづくり」について対話をする。（関係②） ○対話した内容を整理し、次の問いをつくる。（問題①） (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○探究テーマに迫るための問いを考える。（関係①） ○対話の計画を立て、アポイントメントをとる。（問題①） ○対話したり、見学したり、体験したりして学んだ内容を整理し、自分の考えをまとめる。（問題②） ○学級の仲間と対話をし、次の問いをもつ。（問題①） ○これまでの学習を振り返り、探究テーマへの考えをまとめる。（貢献①） (30)	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの探求を通して、「人と人をつながり幸せに生きるとは」について考えたことを振り返り、自分の成長、変化をまとめる。（問題②） ○家族や仲間、身近な人との関係でできている社会の中で生活する自分に気づき、多様な人々が生きる「社会」の一員として、社会の中にある問題点や自分にできることを考える。（貢献①） (5)
加除修正欄			<ul style="list-style-type: none"> ・パティシエの森さん、薬剤師の望月さん、4組担任の新居先生、脳外科医の榎本さんと対話をした。これまで対話をしてきたことを基に、学んだことをまとめ、自分の生き方につなげたい。 	
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・人とつながるために働く中には、うまくいくことばかりではなく、失敗や苦しい思いをすることがあると分かった。しかし、それを乗り越えていくことで、自分が成長できたり、誰かの生活のために貢献できたりするときに幸せを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることや得意を生かしたり、技術を磨き続けたりすることで誰かの幸せに貢献できる。 ・4組の仲間は、お客さんと共に作業をする仲間とつながり合っている。僕たちもふぞくマーケットで何かできることはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで自分たちが考えてきた「人と人がつながり幸せに生きる」は、自分と自分のことを支え、守ってくれる相手との関係の中での心地よさだった。もっと広い視野で「社会」と自分の関係を見つめ、自分たちに何ができるか考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校の中だけではない私たちが接している社会、これから進んでいく社会は、様々な人の努力や相手の幸せを願う思いに支えられている。今の自分たちでできることはないか考え行動したり、提案したりできることがあるのではないか。
実際の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・4組の仲間は、ものづくりを通して、強くつながり合っていた。僕たちとのつながりはまだ弱い。もっとつながれるよう、新居先生とも対話をして、4組仲間のことをもっと知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森さんの生き方から、夢は広がり続けるものだ学んだ。森さんの芯の強さが素敵だと思った。自分の芯をつくらせて磨いていきたい。 	
●エラーメッセージ	<p>■●人とつながり合い、よりよく生きるためには、上手くいかないことも、失敗することもある。自分の幸せだけではなく、相手の幸せも考えて、相手に寄り添ったり、折り合いをつけたりする必要もある。自分の幸せを考えることと相手の幸せを考えることは、どちらが大切なのだろう。</p>			
	<p>■探求テーマに迫る対話相手が分からない。</p>		<p>■より多くの人とつながるために、社会のために何かしたい。でも、今の自分にできることはあるだろうか。</p>	

8年3組 本時案 (8年3組教室)

目標

これまで対話をしてきた相手が大切にしている「人とのつながり方」や「社会のなかで幸せに生きるとは」にある共通点や相違点を基に、仲間と交流する活動を通して、探究テーマ「人と人がつながり幸せに生きるとは」の広がりや深まりを実感し、自己の変容や成長を再認識することで、これから社会のなかで自分はどのように生きていくのか考えることができる。(貢献する人間性)

本時 (27/41)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 これまでの歩みを振り返る。 ○これまで対話をしてきた方から学んだことすべてをつなげて対話をしたい。それぞれの方の生き方に共通点や相違点違はありましたか。 ・職業の違いはあるけれど、対話をしたどの人も「人とのつながり」を大切にすることで、自分の生き方が広がっている。 ・相手とよりよくつながるためには、大変なことや困難なこともあり、それを乗り越える芯の強さが必要だと分かった。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">これまでの対話を通して考えた「人と人がつながり幸せに生きる」とは</p>	<p>○これまで対話をしてきた内容について交流する場を位置づける。 ○これまでの対話のメモやポートフォリオ等を見返しながら、自分の考えをつなげたり、深めたりしながら対話ができるようにする。 ○学級全体の思考の流れがつかめるよう、構造的な板書でそれぞれの考えや意見を位置づける。また、道徳的諸価値を表出した言葉、自分たちの生活や経験と結びつけて考えたことを板書に位置付ける。 ○これまでの対話の中から出てきた「人とのつながり」に関係するキーワードと結び付けながら、考えをつなげていけるようにする。</p>
<p>2 課題について学級全体で対話をする。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか これまで対話してきた相手の生き方から学んだことを基に、交流する活動を通して、自己の変容を認識したり、自分にできることを考えたりしようとしている。(貢献する人間性) ・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p>
<p>3 本時の学びを振り返り、ワークシートに記入する。 ・自分の夢を貫き通し、自分の強さや弱さも認め前に進む森さんは芯の強い人。今の私は就きたい職業がまだ分からないけれど、望月さんや榎本さんのようにこれからなりたいものに出会えたときのために、可能性を広げておきたい。そのために今できることに真剣に挑みたい。 ・好きなことを仕事にできる生き方は幸せだと思う。でも、そこにたどり着くには、幸せなことばかりではない。いろいろな人の支えがあり頑張ることができるし、人とのつながりはどんどん強く大きなものになっていく。私は、これまで頑張ってきた掃除を仲間が認めてくれたことが自信になり成長できた。次は、自分から仲間につながり支えることができるようになりたい。仲間と一緒に成長し続けたい。</p>	